

サポクラ 通信

令和4年(2022年)7月号

今月の内容は...

- ・～シマ・エラ便り～1
- ・今年はいろいと熱い。4
- ・夏季限定メニュー7
- ・フンボルトペンギンのペア事情9

～シマ・エラ便り～

皆さん、こんにちは。シマウマ、エランド担当の酒井です。
あっという間に円山動物園で働いて3年目になりました。早いものですね。
今日は、「砂入れ」、「青草」、「睡眠」についてお話したいと思います！

「砂入れ」

現在、シマウマでは屋内外は碎石という床材を使用、エランドでは屋外は碎石、屋内は荒目砂と碎石の2種類の床材を使用しています。

これらは、毎日の掃除によって管理が難しくなることから、春と秋の季節に砂入れ作業を行い、床材の維持に努めています。

【掃除をすることで】

- ①どんどん床材が減っていき、表面がでこぼこになる
- ②細かい糞や小さい乾草のゴミ、尿などで床材がどんどん締まる（固くなる）
- ③碎石の粒径が小さくなり蹄が伸びやすくなり病気になる可能性がある



表面の碎石を取っている最中と取り終わった写真



砂入れ前と砂入れ後の写真ですが、こんなにも違います！

「青草」

6月1日からエランドには生のクローバー（マメ科）、6月11日からはシマウマには青草（青々したイネ科）を与えています。

与えている理由は冬に向けて好きな青草を食べてもらうことで体重の増加を図る、少しでも野生に近い食を提供したいなどの理由があります。

最初に与える際には、突然大量に与えてしまうと体が追い付かなく、体調に不調をきたすので少しずつ量を増やしてから与えています。現在1日当たりエランドはクローバーを5kg、シマウマは青草を15kg与えています。これに通常のエサ（エランドはルーサン(マメ科)など、シマウマはチモシー(イネ科)など）も与えています。



左が青草、右がクローバー

「睡眠」

皆さんは草食動物の睡眠についてご存知ですか？

日中場合によってシマウマは横臥（横になる）、エランドは反芻しながら座る姿を見ることがありますが、夜の姿は見ることは普段はできません。通常、草食動物は捕食者から逃げたり、栄養の少ない草を時間を費やして食べるためなどの理由により肉食動物より睡眠時間が短いとされています。

シマウマも自然界では立ちながら短時間（1～2時間程度）の睡眠スタイルを取ります。しかし食べられる心配はない動物園は、立って寝ることもありますが、座って寝ることもあります。動物園ならではの光景かもしれませんね。



エランドは座って寝ています



ウトウト中・・・



左は立って寝ていますが、右は座って寝ています

今年は暑い時期が続きますが、皆様もお体に気を付けて円山動物園にお越しただければと思います！



今年はいろいろと熱い。

いつもご支援ありがとうございます。

ニホンザル担当の石井です。

今年は何かと熱いできごとがあるのでご紹介していきます。

まずはニホンザル。

今年は暑さが一段と厳しく、ニホンザルたちもぼてていました。



ご覧の通りです。

僕たちも暑いとこうなりますよね。

同じ霊長類だからこそ、

親近感を持って観察できるのが

サル類の面白いところでもありますね。

↓親子でグルーミング中

（している方：母・みか綺

されてる方：息子・み綺太）



ニホンザルたちが夏バテしないよう、凍らせたブドウを与えたり、散水したりと暑さ対策を行っています。

最年少が17歳という高齢の群れですのでより一層注意しなければいけません。。

最年長、アルファオスの中松。

年々老いを感じるようになりました。

現在は個別に栄養価の高い飼料を与え、体力をつけています。



最近の中松ですが、まだまだ元気です。

見た目はかなり細身ですが、立場はまだ第一位です。

恐らく第2位の個体（みさ次）は体格も良く、

腕力もありますが、中松には勝てません。

現在では47頭のニホンザルが暮らしています。

全頭が健康で快適に生活できるよう、努めていきます。

次に、バタフライガーデンについてです。
園芸好き、昆虫好きの方必見です。

昨年、麒麟館ともりやま食堂の間の園路に、
バタフライガーデンができました。

テーマは『めぐるいのち』。

バタフライガーデンとは、特にチョウが好む
吸蜜源植物をメインに植栽した
イギリス由来のナチュラルガーデンです。

自然を生かし、花に訪れた昆虫をはじめ、鳥や小動物の住処にもなり
またそれらを観察できる自然展示となっています。

日本ではあまり馴染みのないバタフライガーデンですが、
実は欧米の動物園ではポピュラーな展示となっています。

開花する花や、花に訪れるチョウの種類から四季の移ろいを感じることもできる癒しの空間です。
今後、解説版の設置や、バタフライガーデンの拡張も予定していますのでご期待ください。



最後に、前回ご紹介させていただいたオオムラサキについてです。
今年もひっそりと飼育していたオオムラサキが羽化してきました。



写真の左がオス、右がメスです。
オスはエレガント、メスはシックな感じとなっています。

オオムラサキは日本の国蝶でもあり、日本各地に生息しているチョウで、
ここ、円山にも生息している身近な昆虫です。

今後、円山のオオムラサキがいなくならないように、保全活動を実施する予定です。
今年も飼育下でのペアリングに挑戦していますが一筋縄ではいきません。。

保全活動の内容としては、

幼虫の食樹となるエゾエノキの植樹、

(↓ペアリングの様子)

幼虫が越冬する環境の整備、

飼育下での安定した繁殖、

これらを実施することで

オオムラサキの個体数の増加を見込みます。

最後に。

現在、皆さんに間近でオオムラサキを
観察していただきたく、ガイド観察実施予定です。

オオムラサキの生命力を是非体感してみてください。



今回は誠に勝手ながら、個人的に熱い話題をさせて頂きました。

今後は昆虫に触れる機会を増やし、昆虫に興味を持ってくれる方が増えることを願っています。

これからも応援よろしくお願い致します！

夏季限定メニュー

サポートクラブ会員の皆様、こんにちは。昨秋よりキリンの担当をしている飯田です。7月20日現在の札幌は湿度が上がり、とても蒸し暑い季節になってきました。昨年に引き続き夏が厳しい年になりそうです。

さて、このような緑あふれる季節には、夏季限定の特別メニューとして新鮮な生牧草や樹葉など、様々なものをキリンたちに与えています。今回は寒冷地ならではの、夏のキリンの様子についてご紹介いたします。

冬が長い札幌では、一年中暖かい地域の動物園とは、しばしばキリンに与えているものが違います。というのも、北海道では常緑の広葉樹が生えておらず、冬には牧草の収穫もできなくなってしまいます。

本来キリンは非常にたくさんの樹葉を食べる動物であり、冬に樹葉がないとなれば食べるものがなくなってしまいます。そのため、円山動物園では、代用食として保存の効く乾いた牧草を主食として与えています。北海道内では、円柱状に成型された乾草が農地でよく見られますね。とはいえ、やはり新鮮なもののほうが嗜好性は高く、樹葉のほかに夏季限定で生の牧草を与えています。



上図：キリンに与えている乾草



園内のバックヤードには、キリンのほか、シマウマやエゾシカなどの草食動物用に左図のような牧草畑があります。いずれの動物も乾草に比べて採れたて新鮮な生の牧草を好んで食べるので、各飼育担当者が、牧草が育っては刈り取り、育っては刈り取りを繰り返しています。キリンに与えているアルファルファ牧草はぐんぐん伸びるので、キリン担当の私も、コツコツと刈り取ることが最近の日課になっています。

ほかにも・・・

園内で栽培している牧草に加えて、様々な種類の枝を剪定しています。やはり、牧草だけではなく樹葉も大好きなので、できる限り多くの物を与えたいです。園内で生えているもののうち、特に好んで食べるのはミズナラとカエデの葉です。全く食べない樹種はそうそうありませんが、少なからず好き嫌いはあるようです。また、春先の若葉と夏の葉っぱ、秋口の色づいた葉っぱなど、時季によっても好みが変わっていくようです。「前までよく食べたのに残ってる…」といったことがよくあります(単に同じものに飽きただけかもしれませんが・・・)。

キリン屋外展示場の人止め柵内にイタヤカエデの木が1本生えています。よく見ると展示場側の葉っぱがなくなっています。オスのテンスケが柵の外に首と舌を伸ばして地道に食べ進めた証拠です。運がよければ、長い舌を限界まで伸ばす様子が見られるかも・・・？



上図：ダチョウの展示場で剪定したミズナラ
下図：テンスケが食べているイタヤカエデ



上図：匂いを嗅いで餌を吟味する
テンスケ

悩ましい・・・

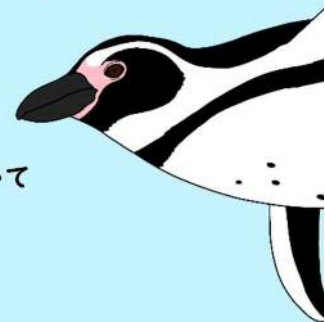
悩ましい・・・最後に、キリンの飼育担当になってとても悩ましい・・・、ことがあるので書き記しておこうと思います。

キリンは見ての通り非常に大きな体の持ち主です。大きな体をつくるにはたくさん食べることが一番！！ですが。。キリンは餌の選り好みが強いと言われます。もちろん個体によって程度は様々かと思われれますが、現在飼育中のオス テンスケはこの傾向が強いように感じます。札幌は寒冷地であるためにより多くのエネルギーを必要とします。そのためできるだけたくさんの餌を食べてほしいところですが、なかなかテンスケの好みを見極めるのがたいへんです。私がとてもおいしそう！と思った牧草が全然見向きもされなかったり・・・このようなことが日常茶飯事です。時には牧草を刻んでみたり、餌箱を新しくしたりと、あの手この手でより多くの餌を食べてもらえるよう願うばかりです。

残り数か月、緑が茂っているあいだに少しでも多くの新鮮な牧草を刈り取っていきましょう。

これから夏も本番を迎えます。札幌もとても暑い日が増えてきましたので、円山動物園にお越しになる際は、しっかりと水分補給をしながら、くれぐれも熱中症にはお気をつけください。

フンボルトペンギンのペア事情



円山動物園サポートクラブのみなさま、いつもご支援ありがとうございます。

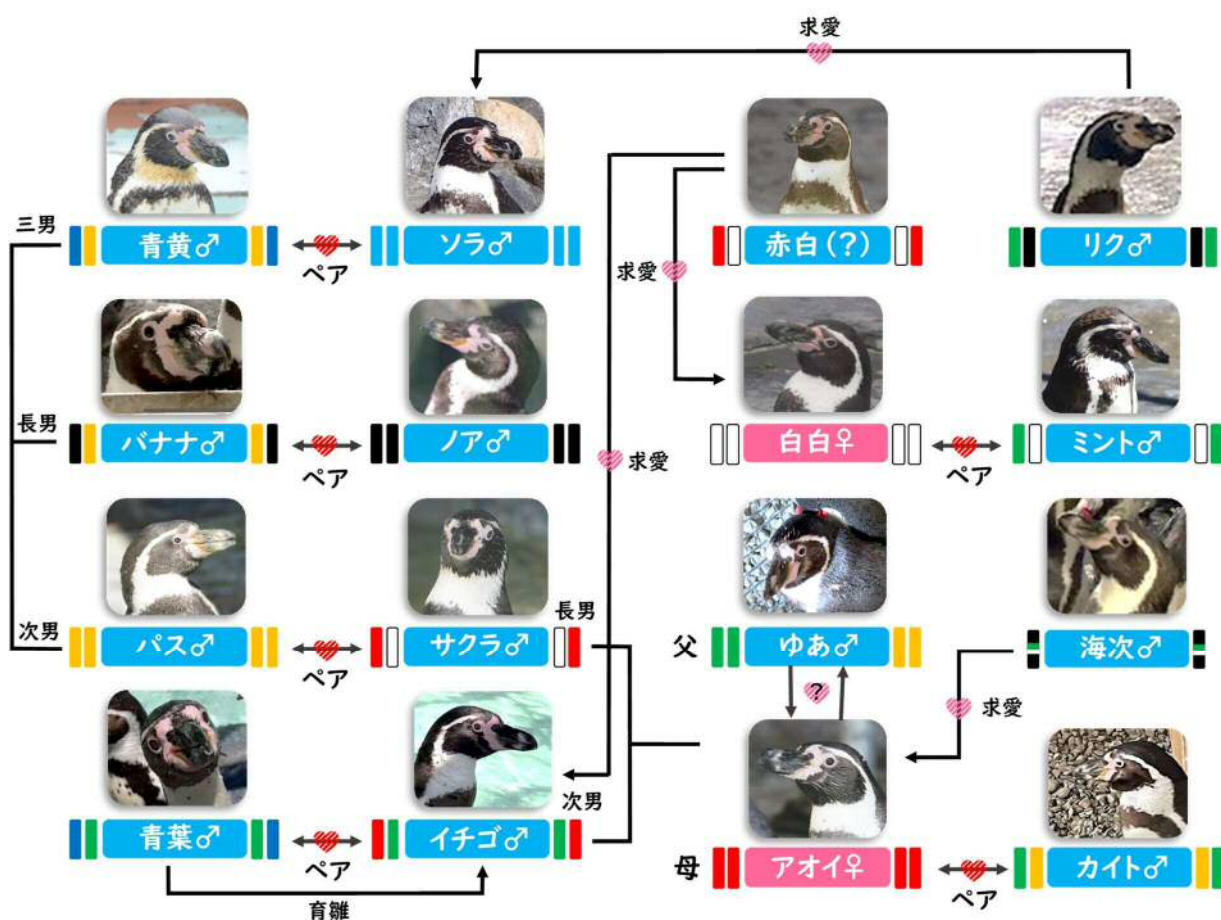
4月から総合水鳥舎担当になりました、楊と申します。

今回は、当園で飼育している16羽のフンボルトペンギンたちのペア事情についてお話しします。

ちなみに、ペンギンの配偶様式は「永続的な一夫一妻制」とされていますが、

当園のフンボルトペンギンたちはどうでしょうか。

愛称、翼帯カラー（翼についているタグ）、性別を個体写真といっしょに紹介いたします！



※2022年6月現在の情報です。今後、関係性が大幅に変わる可能性があります。

ここで「あっ」と気付いた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

実は、6組中4組は同性のオス同士でペアを組んでいます。

当園の同性ペアは、「青黄×ソラ」「バナナ×ノア」「パス×サクラ」「青葉×イチゴ」です。

たまたまかもしれませんが、兄弟そろった同性ペアは興味深いですね。

そして、同性ペアの1日の過ごし方は異性ペアである「ミント×白白」「カイト×アオイ」と変わりません。

カップルの日常

一緒にプールで泳いだり



一緒にお昼寝をしたり



求愛をしたり



なかよく寄り添って寝ている
アオイと元ペアのゆあです。
このときペアのカイトは擬卵を抱卵中…

お互い鳴き声を掛け合います。

「メスが少ない上に、すでにペアがいるから仕方なくオス同士でペアを組んだのでは？」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私はそうとは限らないと思っています。実際に、リクはアオイや白白ではなく、オスであるソラに対して求愛しているところを時々見かけるからです。リクはメスやシングルのオスではなく、ペアのいるオスを選んだのです。



リクがソラに求愛していました。
そこに、ソラのペアである青黄が
2羽の間に入りました。



すかさず対抗するように、ソラへ
求愛^{※1}する青黄。



決着がついたようです。
リクはそそくさと去って行きました。

実は、ペンギンの仲間では、同性同士でペアを組むことは珍しいことではないようで、世界各地の園館でも同様の報告があります。研究者の間では、ペンギンに限らず他の鳥類、哺乳類から昆虫に至るまで、一夫一妻制の配偶様式をとる動物におけるつがい形成は、単に交配を目的とした関係ではないと考えられています。子育ての相性であったり（特にメス同士）、天敵から身を守るうえでの相性であったり、厳しい自然界を生き抜くうえで、互いにとって有益となる相手を選択する「生存戦略」のひとつではないかと示唆されています。



※1：相手の後ろに覆いかぶさり、フリッパー（翼）でパタパタとやさしく叩きます。



これは、ペアのバナナを守ろうとするノアの様子です。
私がバナナの写真を撮ろうと近づいたところ、
少し離れた場所にいたノアがやってきて、私に威嚇しました。

傾げた首を左右に振り、威嚇のポーズをとるノア。

みなさんもぜひ、当園のフンボルトペンギンたちの関係を観察しにきてくださいね。

おまけ ～フンボルトペンギンの換羽～

今年も年に一度の換羽がおわりそうです。
こちら写っている個体はバナナです。



このように、古い羽の下から新しい羽が押し出すように生えてきます。
新しい羽毛に生え変わることで、保温効果や撥水効果を保ちます。